

## GCOE 国際会議出席報告書 (外国旅費用) T1201

拠点リーダー 川合 光 殿

(ふりがな) 氏 名	あなん てつ	所属・職名	指導教員名 (院生の場合)
	阿南 徹	附属天文台・D3	一本 潔
Tel,Fax e-mail	080-3091-3185、075-753-4280、anan@kwasan.kyoto-u.ac.jp		
発表題名	Developments of the wideband spectropolarimeter of the Domeless Solar Telescope at Hida Observatory		
著者名	阿南徹、一本潔、大井瑛仁、木村剛一、仲谷善一、上野悟		
会議名称 ・開催期間	2012 Astronomical Telescope + Instrumentation 自 2012年 7月 1日 ~ 至 2012年 7月 6日		
開催地 (国、市)	オランダ、アムステルダム		
出張期間	自 2012年 6月 30日 ~ 至 2012年 7月 8日		
国別参加者数	アメリカ合衆国：約 600 人、フランス：約 200 人、ドイツ：約 200 人、イタリア：約 200 人、日本：約 200 人、イギリス：約 150 人 合計 約 2450 人		
<p>発表内容、聴衆の反応、質疑応答、その他について簡潔に記述してください。 (口頭発表・ポスター発表の別も文中に明記すること。)</p> <p>これまでゼーマン効果を用いた太陽光球の磁場測定は詳細に行われ、太陽現象には磁場が密接に関わっていることが明らかにされてきた。しかし偏光度の小さい彩層大気 の磁場、ゼーマン効果以外の偏光メカニズムについてはまだほとんど研究されていない。彩層の磁場観測 (偏光度 <math>10^{-3}</math>) やシュタルク効果、衝突偏光を用いた新しいプラズマ診断手法の開拓を行うため、私たちは高い波長分解能を持つ分光器が設置された飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡を用いて、広波長域 (400nm~1100nm) で高偏光測定精度 (偏光度にして <math>10^{-3}</math>~<math>10^{-4}</math>) な偏光観測ができる偏光分光観測システムの開発を行った。偏光測定精度、波長域の広さ、波長分解能においてこの装置は世界最高クラスである。また、望遠鏡自身が生成する偏光を測定する装置偏光較正装置の仕組みは他には類が無い特徴的なものである。申請者は装置の性能と装置偏光較正装置の仕組みについて 20 分間の口頭講演を行った。</p> <p>講演は 300 名程度収容できる大きな会場で 50 名ほどの聴衆の前で行った。壇上からは真剣に聴講していただいている印象を受けた。質疑応答では、「装置偏光を実時間で補正できるのか?」、「使用している波長板の軸の方向の波長依存性はどのようなもので、どのように処理しているのか?」という質問を受け、これらの問に的確に答えることができた。講演後に会場の外でロシアの研究者、オランダや韓国の学生からいくつか質問をされたり、分かりやすかったと言われた。このように多くの人と本講演について交流できたのは分かりやすい講演を心がけた結果だと申請者は考えている。また、英語の発音を向上させることでより聞き易い講演ができるようになりたいと感じた。</p> <p>参加した会議は世界最大規模の天体観測装置開発に関する会議である。講演数は 2000 を超え、全てを把握することは到底不可能であったが、世界中で様々な装置の計画や開発が行われていることを知ることができ、非常に有意義であった。援助していただいた GCOE に感謝いたします。ありがとうございました。</p>			